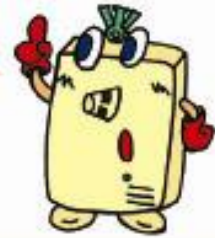




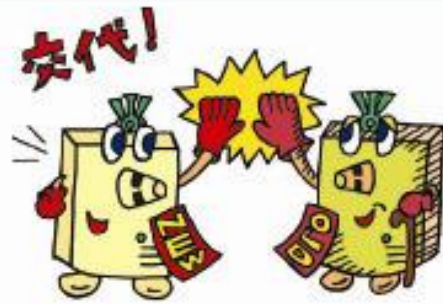
どんな種類がありますか？

『電池を使うタイプ』と『家庭用電源を使うタイプ』があります。



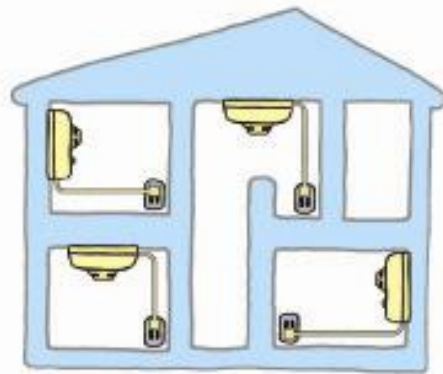
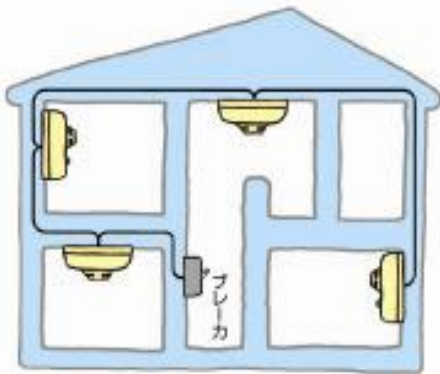
電池を使うタイプ

電池切れ警報（音または表示）が出たら、電池を交換するものと、機器ごと交換する長寿命のものがああります。



家庭用電源 (100V) を使うタイプ

電気工事士による工事が必要なものと、コンセントへ差し込むものがあります。



『単独型』と『連動型』があります。



単 独 型

火災を感知した火災警報器だけが警報を発します。

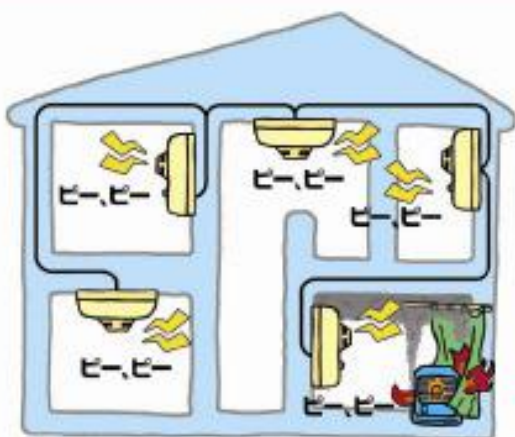
例えば、寝室の火災警報器が火災を感知すると、この火災警報器だけが警報を発します。



連 動 型

火災を感知した火災警報器だけでなく、接続されているすべての火災警報器が火災信号を受け警報を発します。

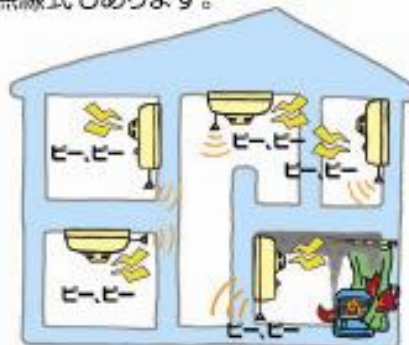
居室の火災警報器が火災を感知すると、寝室や階段のすべての火災警報器が警報を発し、例えば、耳の遠いお年寄りの部屋での火災も他の部屋の若い人が気付いて救出することができます。



音声でお知らせする火災警報器もあります。



*無線式もあります。



※イラストのアンテナはイメージです。実際には付いておりません。

この他にも下記のような装置があります。

補助警報装置

高齢者の方、目や耳の不自由な方には、音や光の出る補助警報装置の増設をおすすめします。

*無線式もあります。

※イラストのアンテナはイメージです。
実際には付いておりません。

